

病院では高度な知識・技術と資格をもった さまざまなスペシャリストが活躍している！

医師や看護師をはじめとするさまざまなスペシャリストが互いに協力・連携しながら活躍している医療業界。人の生命や健康にかかわるので、どの職種も専門的な教育と資格が必要とされるのがこの分野の大きな特色だ。それだけに、高校卒業時点で目標を決めて進学先を選ぶことがほかの業界以上に大きなポイントなる。ここでは病院を職場とする専門職をクローズアップ！

>> 病院で働く人をクローズアップ！

医療業界

取材・文／伊藤敬太郎 撮影／田中史彦 イラスト／佐原周平

仕事
が
わかる
業界図鑑

vol.34

栄養面から患者をサポート

管理栄養士

仕事の一つは入院患者の食事管理。一般食から食事制限のある患者用の食事まで、栄養のバランスが取れたメニューを考える。退院後の食事療法などに関する栄養指導も重要な仕事の一つ。資格を得るには、管理栄養士養成施設に認定された大学などで学ぶのが一般的。

病院の運営や事務に携わる

医療事務

病院内で、受付・会計業務、診療報酬請求事務、カルテ管理などを担当する事務スタッフ。診療内容ごとに定められた点数に応じて診療報酬を計算するなど専門知識が必要のため、資格が必要とされることが多い。メディカルクラークともいう。女性に人気の高い仕事。

病院の経営・運営にはほかに事務局長や人事、総務、会計、施設管理などの事務系スタッフも携わる。

診療のサポートや患者の世話をを行う

看護師

医師と協力して診療のサポートをしたり、患者の療養上の世話をしたりする仕事。医療機関のほか、行政、訪問看護ステーション（在宅支援）など活躍の場は幅広い。看護系の4年制大学か3年制の専門学校・短大へ進み、国家試験に合格すると資格が得られる。

医薬品のスペシャリスト

薬剤師

医薬品に関する専門家。医師の処方箋に基づく医薬品の調剤、特殊な医薬品の製剤、医師への医薬品についての情報提供、患者への服薬指導や服薬状況の管理、副作用の発現状況の観察などが仕事。資格を取得するには、大学の薬学部（6年制）に進む必要がある。

病気の診療や治療を行う

医師

病気やケガの診察・治療などを行う専門家。内科、外科、小児科、産婦人科、皮膚科、精神科、麻酔科などさまざまな専門分野がある。また、病気などの研究をメインとする医師もいる。大学の医学部（6年制）に進み、国家試験に合格すると医師免許が取得できる。

患者の生活面をケアする

医療ソーシャルワーカー

退院後も介護が必要な患者や経済的に苦しい患者など、福祉的な援助が必要な患者に対して、適切な福祉サービスを紹介したり、自立した生活を支援したりする。法律上必須ではないが社会福祉士の資格を取得して働いている人がほとんど。ケースワーカーともいう。

リハビリや機能回復のサポート

理学療法士

高齢や病気・ケガなどで身体機能に衰えや障害が生じた人に対して、日常的な動作や運動機能の回復を援助するリハビリテーション専門職。マッサージ、体操、温熱療法、電気療法などを行う。医療系の大学・短大・専門学校で学んで国家資格を取得する必要がある。

作業療法士

理学療法士などと並ぶリハビリテーション専門職の一つ。心身に障害を抱える人に対して、工芸、手芸、園芸、絵画などの作業を通して日常的な生活動作の回復や心理的安定を図る。医療系の大学・短大・専門学校で学んで国家資格を取得する必要がある。

病院で活躍するリハビリテーション専門職には、このほかに言語聴覚士、視能訓練士などがある。

病気の原因や患者の状態を検査する

臨床検査技師

患者の血液や尿などを検査してその成分や中に含まれる病原菌、微生物などを調べたり、心電図検査や超音波検査（エコー）などを行ったりする仕事。医学、生物学、化学などの幅広い知識が必要。大学・短大・専門学校などの専門の課程で学んで国家資格を取得する。

診療放射線技師

医師の指示の下でX線撮影（レントゲン撮影）やCT（人体の輪切り画像の撮影）など、放射線を用いた検査・治療を行う専門家。機器の操作のほか、放射線量の管理なども重要な役割。大学・短大・専門学校などの専門の課程で学んで国家資格を取得する必要がある。

検査は医師が行う場合も。機器操作系の専門職には生命維持管理装置を扱う臨床工学技士もある。

最新の業界事情

患者の生活面もケアする 「チーム医療」が浸透

今、医療の現場では、単に病気やケガを治療するだけでなく、患者の生活まで含めてトータルでケアをする「チーム医療」が浸透。これを支えるため、医師以外の医療専門職にも、より高度で幅広い知識・技術が求められている。例えば、看護師の場合、専門看護師、認定看護師といった分野別の専門性を認定する制度が設けられ、専門家として活躍の場は広がっている。また、医師や看護師は依然として人材不足。毎年のように大学の医学部の定員増員や看護学部の増設があり、この道を志す人にとってはチャンスが続いている。

専門看護師とは、特定の分野に関して深い専門知識や看護技術をもつ看護師のこと。山田さんは、看護師になつて5年間の病棟勤務後、専門看護師を目指して日本赤十字看護大学大学院看護学研究所がん看護学専攻修士課程に進んだ。「現場経験を通して日常業務は覚えていきましたが、つらそうにしているがんの患者さんに適切なケアをするにはもっと踏み込んだ専門性が必要だと感じました」

2年休職して学んだ後、職場復帰し、専門看護師の資格を取得。現在は緩和ケアを専門とする医師、看護師、薬剤師などで構成される緩和ケアチームに所属。患者の体や心の苦痛を和らげ、その人らしさや日々の生活を大切に「緩和ケア」が必要とされる場合に依頼を受けて、依頼先の病棟へ出向く特命チームだ。山田さんは、患者や家族のケア、病棟の医師、看護師へのコンサルテーション相談、教育などを担う。「特に看護師に求められるのは精神的なケア。患者さんや家族の状況

看護師になるためのステップは上の「看護師」の欄参照。専門看護師は、看護師として5年以上の臨床経験を終えたうえで、看護系の大学院修士課程で学び、修了後に臨床経験を重ね、レポート提出後、試験に合格すると取得できる。専門看護師には、がん看護、精神看護、地域看護、老人看護、小児看護、慢性疾患看護など11分野があり、それぞれにニーズが高まっている。

この職業に就くには

山田さんの「一日」
 始業は8:40。担当患者のカルテチェックをした後、患者を訪問。13:00、13:30は毎日異なる病棟のカンファレンス（会議）に参加し、緩和ケアやがんに関する相談に対応。午後も担当患者を訪ね、終業は定時を過ぎることも。

患者さんを支える
存在でありたい

職種 PICKUP!!

専門看護師

日本赤十字社医療センター
がん看護専門看護師
山田彩華さん（32歳）



北海道札幌北高校、日本赤十字看護大学看護学科卒。日本赤十字社医療センターに看護師として就職。2008年に母校の大学院に進学。修了後、2011年にがん看護専門看護師に。